

- 問1 6世紀後半の飛鳥時代において、大陸から伝わった仏教の受容を積極的に進めた蘇我氏と、日本の伝統的な神を重んじてこれに反対し、最終的に軍事衝突の末に滅ぼされた有力な豪族はどこか。 (2025年 岡山県公立入試 類似)
1. 山名氏 2. 物部氏 3. 大伴氏 4. 中臣氏
- 問2 大化の改新を進めた中大兄皇子や中臣鎌足らが、高向玄理や僧旻といった大陸帰りの人々を「国博士」として重用した理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
1. 最澄が中国から持ち帰った新しい仏教の教えを、国家の公式な宗教として広めるため 2. 元軍の侵攻に備えるため、大陸の軍事技術や城郭の築き方を導入する必要があったため 3. 勘合貿易を円滑に進めるために、中国の商人や役人と交渉できる語学力が必要だったため 4. 隋や唐の高度な政治制度や法律の知識を、日本の新しい国づくりに反映させるため
- 問3 飛鳥時代から現代までの日本の歴史を時系列で並べた際、聖徳太子が「十七条の憲法」を制定した時期よりも「後」の出来事であり、かつ奈良時代に行われた事柄として正しいものはどれですか。 (2024年 静岡県公立入試 類似)
1. 安土桃山時代を象徴する、豪華な装飾が施された城郭が各地に築かれたこと 2. バブル経済が崩壊し、長期にわたる景気の後退が始まったこと 3. 日本で最初の女性天皇として、推古天皇が即位し政治の基盤を整えたこと 4. 自分で新しく切り開いた土地を永久に自分のものにすることを認める「墾田永年私財法」の施行
- 問4 聖徳太子が「十七条の憲法」の制定や「冠位十二階」の制度を導入した背景にある、当時の政治的な狙いとして最も適切なものはどれですか。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
1. 仏教の影響を排除し、神道に基づいた古くからの統治方法を復活させるため 2. 特定の豪族が代々高い位を独占する仕組みを強化し、政権を安定させるため 3. 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権的な政治体制を整えるため 4. 農民に土地を分け与える班田収授法を施行するための、全国的な戸籍を作成するため
- 問5 7世紀後半、日本が対馬や九州、瀬戸内海沿岸などに「山城」を築き、大規模な国防強化を行うこととなった直接の理由として正しいものはどれですか。 (2016年 秋田県公立入試 類似)
1. 平将門の乱や藤原純友の乱が発生し、地方の治安が急速に悪化したため。 2. 蝦夷（えみし）との戦いが激化し、東北地方の支配権を確立するため。 3. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。 4. 遣唐使を廃止したことで唐との国交が断絶し、緊張状態が高まったため。
- 問6 飛鳥時代、中国や朝鮮半島から大陸の文化や制度が伝えられる中で導入された「冠位十二階」について、その目的を説明したものとして最も適切なものはどれか。 (2022年 宮城県公立入試 類似)
1. 特定の有力な豪族だけに、代々高い位を保証するため 2. 仏教の教えを広めることで、国を平和に導くため 3. 地方の土地や人民を、すべて天皇が直接支配するため 4. 家柄にとらわれず、有能な人材を役人として採用するため
- 問7 日本の歴史における時代区分と出来事の前後関係について説明した文として、最も適当なものを次のうちから1つ選びなさい。 (2021年 宮崎県公立入試 類似)
1. 奈良時代に豊臣秀吉が太閤検地を行い、その後、安土桃山時代に平清盛が政権を握った。 2. 飛鳥時代にフビライ・ハンが来朝し、その後、室町時代に平清盛が太政大臣に就任した。 3. 平安時代末期に平清盛が日宋貿易を推進し、その後、鎌倉時代にフビライ・ハン率いる元が日本へ押し寄せた。 4. 鎌倉時代に平清盛が幕府を開き、その後、安土桃山時代にフビライ・ハンによる元寇が起こった。
- 問8 飛鳥時代、推古天皇の摂政として政治を行い、国をまとめるために仏教を厚く敬うよう説いた人物は誰ですか。現存する世界最古の木造建築物とされる法隆寺を建立したことで知られる人物を選んでください。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
1. 足利尊氏 2. 中臣鎌足 3. 藤原道長 4. 聖徳太子
- 問9 聖徳太子が、十七条の憲法の中で「あつく三宝を敬え」と記すなど、政治に仏教を積極的に取り入れた目的として最も適切な説明を選んでください。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
1. 仏教を精神的な支えとすることで、豪族を団結させ、天皇を中心とした国家体制を安定させるため 2. 寺院を軍事的な拠点として整備し、対立する豪族を武力によって制圧するため 3. 大陸から移り住んできた渡来人の勢力を弱め、古来の日本の神々への信仰を独占するため 4. 仏教の教養を役人の採用基準とするため、中国の「科挙」の制度を完全に模倣するため
- 問10 7世紀に中国を統一し、律令と呼ばれる法体系に基づく統治制度を確立して、日本をはじめとする東アジア諸国の国づくりに決定的な影響を与えた帝国を選んでください。 (2020年 徳島県公立入試 類似)
1. 隋 2. 唐 3. 漢 4. 宋
- 問11 白村江の戦いで大敗した倭（日本）の朝廷は、唐や新羅による日本への侵攻を強く警戒しました。九州北部や対馬などの防衛を強化するために配置された、東国出身の兵士と、敵の襲来をいち早く知らせるための合図を送る施設の組み合わせとして正しいものを選んでください。 (2025年 山口県公立入試 類似)
1. 健児と国府 2. 防人と烽火台 3. 足軽と関所 4. 御家人と元寇防壁
- 問12 飛鳥時代の外交と国防に関する記述として、白村江の戦いによる敗戦がその後の日本の政策に与えた影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 富山県公立入試 類似)
1. 大陸との交流を完全に断つため、遣唐使を廃止して国風文化を振興し、武士の力による独自の防衛体制を整えた。 2. 唐や新羅の侵攻に備え、九州に水城や防人を配置するとともに、都を近江の大津宮へ移して国内の守りを固めた。 3. 清の軍勢力に対抗するため、欧米の技術を導入して近代的な軍隊を組織し、江華島事件をきっかけに海外進出を始めた。 4. 元（モンゴル）の襲来を警戒し、博多湾の沿岸に石造りの防壁を築いて、全国の御家人を組織した。
- 問13 7世紀後半、天武天皇の時代に鑄造されたとされる日本最古の銅銭の名称を次の中から選びなさい。かつては708年に発行された和同開珎が最古とされていましたが、飛鳥池遺跡の発掘調査などにより、この貨幣の存在が改めて注目されました。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
1. 和同開珎 2. 富本銭 3. 無文銀銭 4. 皇朝十二銭

答え合わせ・解説

問1	答え 2 物部氏	古墳時代から飛鳥時代にかけて、政治の実権をめぐり有力な豪族の間で激しい争いが起こりました。仏教を新しい統治の道具として取り入れようとした蘇我氏に対し、軍事や刑罰を司り伝統を重んじた物部氏は強く反対しました。この対立は「崇仏論争」と呼ばれ、最終的に蘇我馬子が物部守屋を滅ぼしたことで、日本における仏教受容の流れが決定的となりました。
問2	答え 4 隋や唐の高度な政治制度や法律の知識を、日本の新しい国づくりに反映させるため	当時の日本は、豪族が権力を持つ古い政治体制から、中国を模範とした天皇中心の集権的な国家（律令国家）への転換を急いでいました。そのためには、実際に隋や唐で政治の実態や法体系を学んできた留学生や学問僧の知見が不可欠であり、彼らを政治顧問である国博士として登用することで、改革のスピードと精度を高めようとしてしました。なお、最澄や勘合貿易、元との戦いは、いずれも大化の改新より後の時代の出来事です。
問3	答え 4 自分で新しく切り開いた土地を永久に自分のものにすることを認める「墾田永年私財法」の施行	十七条の憲法は7世紀初頭の飛鳥時代に制定されました。これに対し、墾田永年私財法は8世紀（743年）の奈良時代に制定された法令であり、時代順として後に位置します。推古天皇の即位は憲法制定の前提となる出来事であり、城郭の建築やバブル崩壊はそれよりもさらに数百年から千年以上後の出来事です。当時の社会状況の変化を時代区分ごとに理解することが重要です。
問4	答え 3 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権的な政治体制を整えるため	当時は蘇我氏などの有力豪族が政治の実権をめぐって対立していました。聖徳太子は、家柄ではなく才能や功績に応じて位を与える「冠位十二階」や、役人の心得を説く「十七条の憲法」を定めることで、豪族中心の政治から天皇を中心とするまとまりのある国づくりを目指しました。
問5	答え 3 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。	百済の復興を支援するために朝鮮半島へ送られた日本軍が、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗したことが発端です。この敗北により、当時の指導者であった中大兄皇子は、勝利に乗じた唐などが日本へ攻めてくることを恐れ、国家の存亡をかけて防人や山城による防衛線を作り上げました。
問6	答え 4 家柄にとらわれず、有能な人材を役人として採用するため	当時の日本は、大陸の進んだ文化を取り入れながら、天皇を中心とする国づくりを急いでいました。そのためには、世襲によって地位が決まる古い氏姓制度から脱却し、能力のある人物を政治の担い手として確保する必要がありました。この制度の背景には、同時期の食文化と同様に、大陸との活発な交流が影響しています。
問7	答え 3 平安時代末期に平清盛が日宋貿易を推進し、その後、鎌倉時代にフビライ・ハン率いる元が日本へ押し寄せた。	平清盛は平安時代末期に太政大臣となり、大輪田泊を整備して日宋貿易を進めました。その後、鎌倉時代中期の13世紀後半に、元の皇帝フビライ・ハンによる元寇が起こりました。平清盛の政権獲得（平安時代末期）はフビライ・ハンの侵攻（鎌倉時代）よりも前の出来事となります。
問8	答え 4 聖徳太子	推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸王）は、仏教を深く信仰し、政治の柱に据えました。その象徴として奈良県に法隆寺を建立し、仏教の教えを通じて豪族たちの対立を抑え、天皇を中心とした国づくりを目指しました。中臣鎌足は大化の改新、足利尊氏は室町幕府の創設、藤原道長は平安時代の摂関政治に関わる人物です。
問9	答え 1 仏教を精神的な支えとすることで、豪族を團結させ、天皇を中心とした国家体制を安定させるため	当時の日本は有力な豪族たちが勢力争いをしており、国家としてのまとまりに欠けていました。聖徳太子は、共通の信仰対象として仏教を広めることで、豪族たちの対立を解消し、中央集権的な国家を作り上げるための精神的基盤にしようと考えました。これは、冠位十二階や十七条の憲法といった制度改革とも連動した動きです。
問10	答え 2 唐	この帝国は、隋が短期間で滅びた後に中国を再統一し、約300年にわたって繁栄しました。日本は遣唐使を派遣して、その優れた政治制度や仏教文化、都市計画などを積極的に取り入れ、律令国家としての基盤を固めていきました。
問11	答え 2 防人と烽火台	敗戦後、唐・新羅連合軍の日本上陸を恐れた天智天皇は、北九州の沿岸部に「防人（さきもり）」を配置し、敵の発見を都に伝えるための「烽火（とぶひ／烽火台）」を設置しました。あわせて、大宰府を守るための水城（みずき）や朝鮮式山城を築いて防御を固めました。元寇防壁は鎌倉時代の元に対する防衛施設です。
問12	答え 2 唐や新羅の侵攻に備え、九州に水城や防人を配置するとともに、都を近江の大津宮へ移して国内の守りを固めた。	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した中大兄皇子（天智天皇）は、日本への報復的な侵攻を強く警戒しました。そのため、九州の太宰府付近に水城（みずき）や大野城などの城を築き、東国から徴集した防人（さきもり）を配置して国境の警備を強化しました。また、都を飛鳥から内陸の大津宮（現在の滋賀県）へ移したのも、防衛上の理由が背景にあります。
問13	答え 2 富本銭	奈良県の飛鳥池遺跡などで大量に出土したことにより、それまで最古の貨幣と考えられていた和同開珎（708年発行）よりも古い683年頃に、天武天皇によってつくられたことが判明しました。表面には「富」と「本」の文字が記されています。当時の律令国家としての体制を整える一環として、また呪術的な目的も含めて鑄造されたと考えられています。